

長崎県対馬市との連携概要書

大陸からの文化の窓口



対馬は、九州と朝鮮半島の間に“飛び石的”に位置し、日本の中で朝鮮半島に最も近いという地理的条件から、石器・青銅器文化、稲作、仏教、漢字など大陸文化を伝える日本のフロンティアとして、また、朝鮮通信使に代表されるよう日韓交流の拠点として外交上重要な役割を果たしてきました。歴史文化だけでなく、ツシヤママネコ（絶滅危惧ⅠA類）をはじめとする大陸系・日本系・共通系・対馬固有の動植物が混在するユニークな島として知られます。



希少性の高い農産物・加工食品



対馬には希少性の高い農産物・加工食品、ソバや米など対馬を玄関口として日本にもたらされた農産物が複数存在し、日本の農業の基層を理解する上では重要な地域の1つと言えます。山地が多く、陸上交通が不便であったため、島への伝来物が何百年もそのまま保存されている場合があります。その代表が対州そば。そばは縄文後期に日本に移入されたと考えられ、全国的に品種改良が進みましたが、対馬では縄文後期の原種そばを今でも味わうことができます。また、昔ながらの養蜂法が今も行われており、濃厚で香り高い和蜂のハチミツを楽しむことができます。

- ◎市 長：比田勝尚喜（ひたかつなおき）
- ◎面 積：708km² →面積の9割が山地＝「山の島」、農地面積は1%
- ◎人 口：32,056人（H28.4月末現在）
- ◎出生率：2.18（合計特殊出生率）※全国5位
- ◎集落数：125（半数は200名未満の小集）
- ◎交 通：博多港からフェリーで4時間30分（厳原航路）、5時間40分（比田勝航路）
博多港からジェットフォイルで2時間15分（厳原港）※韓国・プサンから国際航路有
福岡空港あるいは長崎空港から飛行機で約35分
- ◎主産業：漁業、土木建築業、サービス業
※森里川海・農林水が一体となった生業を有する方が多い
- ◎特色ある農産物・加工品：対州ソバ、赤米、かばしこ米、マサラ、伝統発酵食“せん”等
- ◎教 育：小学校21校（児童1,694名）※複式学級11校 中学校13校（生徒912名）
高校3校（対馬高校504名、豊玉高校49名、上対馬高校96名）
- ◎主要林産物：スギ、ヒノキ、原木シイタケ

東京農業大学出身者

大平登志彦（林業家、林学科卒）、西村圭司（対馬市役所農林水産部長、林学科卒）
伊藤浩一郎（合資会社河内酒造代表、醸造科卒）、伊藤真太郎（河内酒造、醸造科学科卒）
伊藤裕美（河内酒造、生物応用化学科卒）、山崎唯（栄養科学科卒 ※女子駅伝部）
江口豊隆（対馬江口醤油株式会社代表取締役、醸造科卒）、江口慶祐（醸造科学科卒）
岩下明生（環境省ツシヤマネコ順化ステーション自然保護専門員、農学研究科修了：畜産学博士）
富田浩文（長崎県対馬振興局林業課専門幹、林学科卒）計10名（H28.4末現在）

研究者

小崎道雄（故・名誉教授、せんだんごの研究）
岡田早苗（名誉教授、せんだんごの研究）
内野昌孝（応用生物科学部教授、せんだんごの研究）
田中尚人（応用生物科学部教授、せんだんごの研究）
岡 大貴（応用生物科学部助教、せんだんごの研究）
松嶋賢一（農学部准教授、かばしこ米）、山口裕文（3月まで農学部教授、伝統養蜂、米）
三井裕樹（農学部准教授、植物：ヒゴタイの研究）



せندانご



伝統養蜂

今後の交流の可能性

- 対馬において、日本の農業基層を解明しつつ、農産物・加工食品の保存に対する客観的な評価や助言など、東京農業大学が果たす役割が大きいと考えます。社会的な要請として地域貢献、研究成果の還元が求められる中、農大が対馬において活動することは、大学活動のPR等利点は少なくないと感じております。
- 対馬市では、地域活性化の後押しと人材育成のため、「域学連携」（地域と大学との連携）を重点施策の1つとし、積極的に学生実習の受け入れや学術研究の奨励（2/3補助）、成果還元・共有の場づくり（対馬学フォーラム）に取り組んでおり、受け入れやサポート体制が他自治体と比べて充実していることもメリットであろうかと思えます。過去、数名の農大の学生が現地実習で対馬に訪れています。

◆東京農業大学の窓口教員

応用生物科学部教授 内野昌孝

◆南アルプス市の担当窓口

対馬市の担当者

対馬市 しまづくり戦略本部 新政策推進課 主任 前田剛（まえだつよし）

〒817-8510 長崎県対馬市厳原町国分1441番地

Tel/Fax:0920-53-6111/6112

E-mail: t-maeda@city-tsushima.jp

締結日2016.6.6